

# ECONOMY TOPICS

## 経済トピックス

2013.12.5

No.424



### 平成 25 年冬のボーナス調査

#### レポートの概要

平成 25 年冬のボーナス受給見込額は、平均で 37 万 9 千円となり、昨年冬の受給実績に比べ 4 千円下回った。一方、ボーナス希望額は平均で 52 万 9 千円となった。なお、今冬のボーナスの伸び(見込み)は「良くなる」とする割合が増加、「悪くなる」が減少したことから期待指数は 8.0 ポイント上昇した。

ボーナスの使途計画は、「消費」が 41.7%、「貯蓄」が 43.3%、「返済」が 15.0%の割合となり、前年同期とほぼ同じ水準となった。「貯蓄」の目的については、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が最も高く、「老後の備え」、「教育」がこれに続き、昨年冬の調査と 2 位、3 位が入れ替わった。

最近の暮らし向き調査では、25 年夏に比べて暮らし向き指数が 3.1 ポイント低下した。「良くなった」とする割合が 0.5 ポイント減少し、「悪くなった」とする割合は 5.7 ポイント増加した。暮らし向き指数は 24 年夏以降 4 期(半期毎)連続で 40.0 を超えている。「良くなった」とする割合は依然として 5%程度と低い水準にあるものの、全体としては暮らし向きの悪化に底打ち感がうかがわれる。

県内給与所得者の小遣いの平均額は、毎月が約 3 万 3,100 円、ボーナス時は約 5 万 300 円となった。最も小遣いが多かったのは毎月、ボーナス時とも 20 代女性であった。一方、最も少なかったのは毎月、ボーナス時とも 40 代女性であった。

この冬の御歳暮は、贈る「予定あり」が全体の 37.5%となった。「予定あり」の割合は、20 代が約 1 割にとどまったが、年代が進むにつれて割合が大幅に増加し、50 代では 64.7%となった。「予定あり」とした回答者の平均贈答先数は 4.8 先、1 先当たりの平均金額は 4,364 円、御歳暮予算合計額は約 2 万 65 円となり、昨年調査に比べて贈答先数、予算額が増加、平均金額は減少した。

# 1. 平成25年冬のボーナス調査

## (1) ボーナス支給見込額

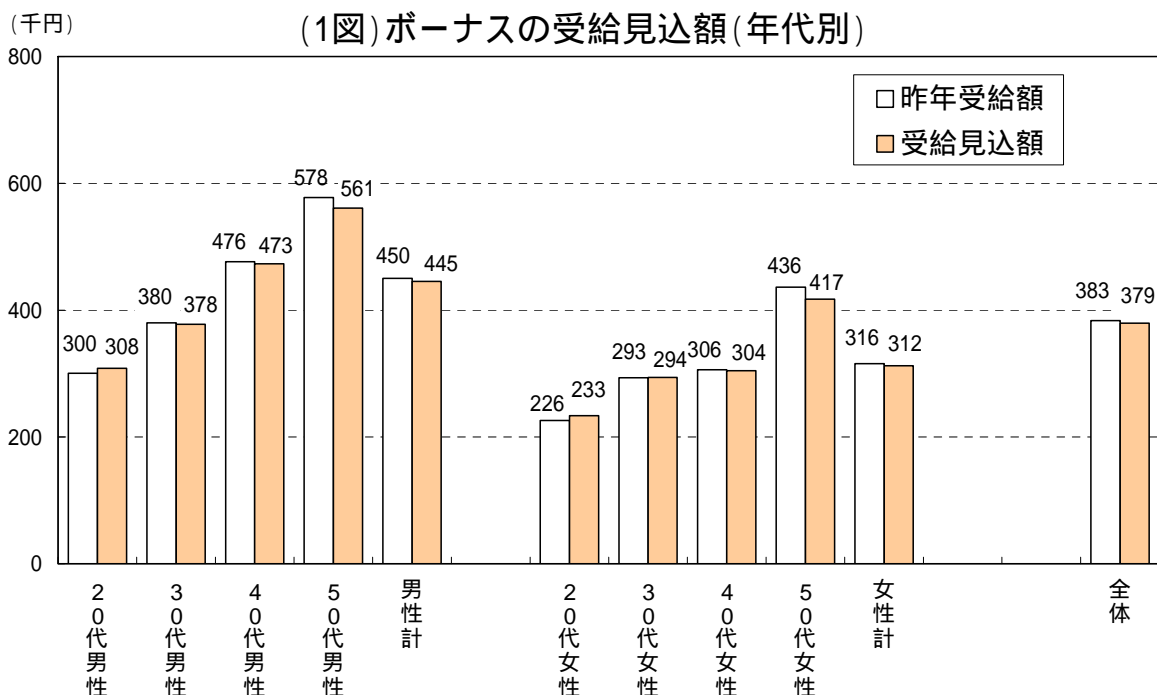
平均37万9千円、前年を4千円下回る

県内給与所得者が予想する今冬のボーナス支給見込額は、平均で37万9千円となり、回答者の昨年冬の支給実績(平均38万3千円)に比べ1.0%、4千円下回った。これを年代別・男女別にみると、最も見込額が大きかったのは50代(50代以上を含む、以下同じ)男性の56万1千円、次いで40代男性の47万3千円、50代女性の41万7千円、30代男性の37万8千円などの順となった。また、20代(20代以下を含む、以下同じ)女性、30代女性とともに30万円を下回った。

男女別の平均見込額を比較すると、男性が44万5千円、女性は31万2千円となり、男性が女性より13万3千円多くなっている。

なお、今冬の見込額と昨年冬の支給実績額との開きをみると、40代以上は男女とも昨年冬の支給額を下回るとしており、差額は50代女性が1万9千円、50代男性が1万7千円、40代男性が3千円、40代女性が2千円となった。一方、30代以下では30代男性が昨年冬の支給額を2千円下回っているものの、20代男性は8千円、20代女性は7千円、30代女性は1千円上回るとしている。

(以上、1図参照)



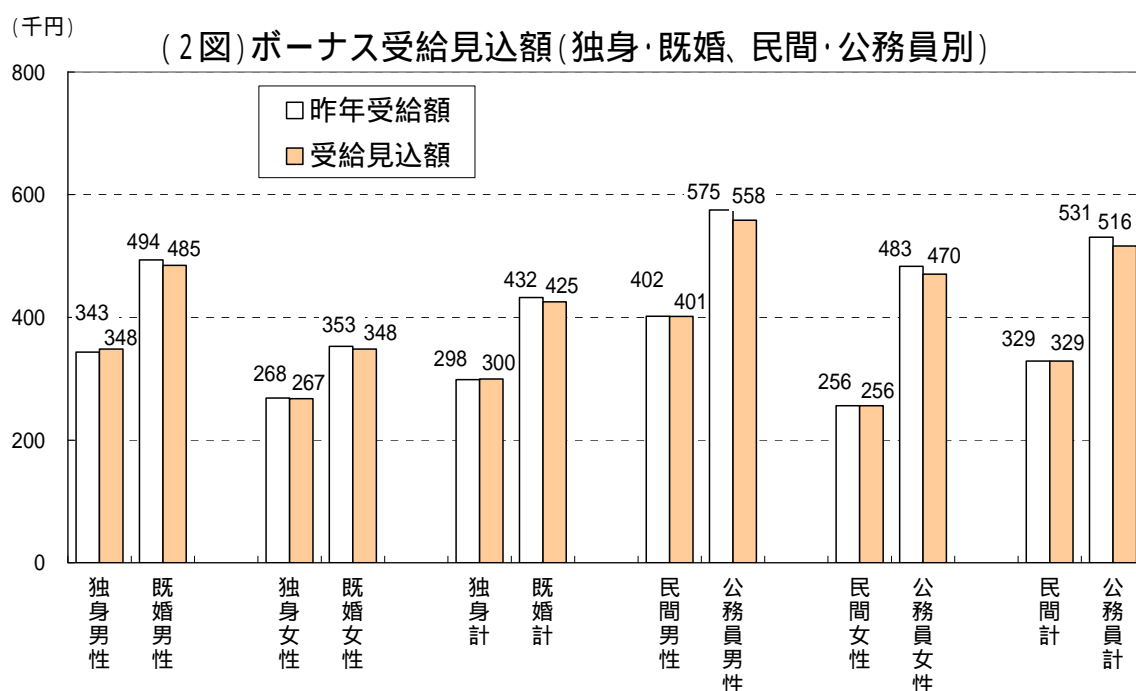
次に、独身・既婚別の受給見込額をみると、独身者が30万円、既婚者が42万5千円となった。昨年冬の受給実績に比べ独身者が2千円上回る一方、既婚者は7千円下回ると見込んでいる。

また、民間・公務員別では、民間が32万9千円、公務員が51万6千円の見込みとなった。昨年冬の受給実績額と比べると、民間が横ばいとなり、公務員は1万5千円下回る見込みとなった。男性は民間が1千

円、公務員は1万7千円それぞれ下回るとしている。一方、女性は民間が横ばいとなり、公務員は1万3千円下回るとしている。

今冬のボーナス受給見込み額は、50代女性で1万9千円減、50代男性で1万7千円減の開きがみられたものの、全ての年代・属性で2万円以下の開きにとどまっており、全体に昨年冬の受給実績額に比べ大きな開きはみられなかった。

(以上、2図参照)



## (2) ボーナスの希望額

ボーナス希望額は平均52万9千円

今冬のボーナス希望額は平均で52万9千円となり、平均受給見込額37万9千円との間に15万円の乖離を生じた。男女別の平均希望額を比較すると、男性が61万7千円、女性は43万9千円となり、男性が女性より17万8千円多くなっている。

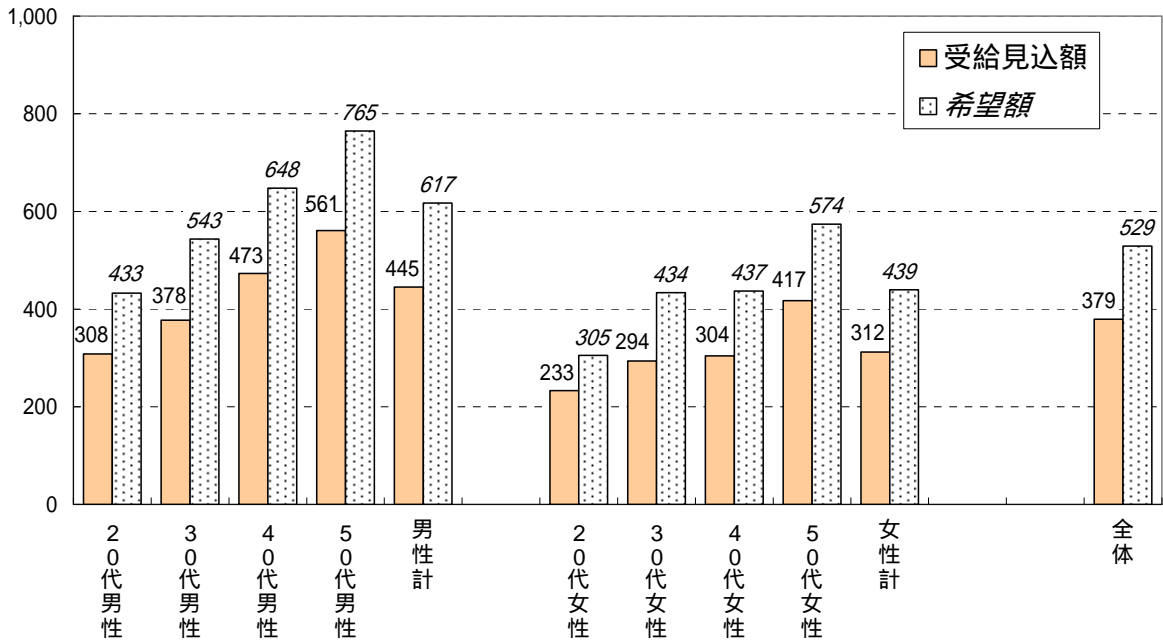
年代別・男女別の平均希望額をみると、50代男性が76万5千円でトップとなり、以下、40代男性の64万8千円、50代女性

の57万4千円、30代男性の54万3千円などと続いた。

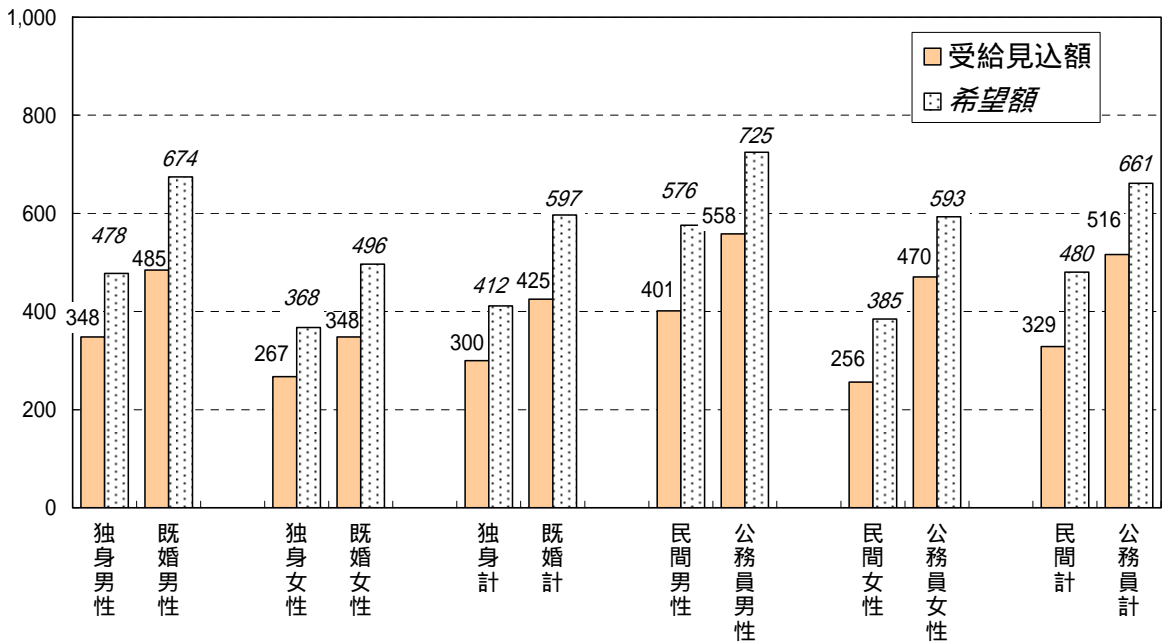
受給見込額と希望額との乖離幅を年代別にみると、50代男性が20万4千円で最も大きく、次いで40代男性の17万5千円、30代男性の16万5千円、50代女性の15万7千円などと続いた。乖離幅が最も小さかったのは20代女性の7万2千円であった。各年代とも男性が女性に比べ、乖離幅

が大きかった。なお、独身・既婚別にみると、公務員より幾分大きかった。  
 既婚者の乖離幅が独身者よりも大きかった。(以上、3、4 図参照)  
 民間・公務員別でみると、民間の乖離幅が

(千円) (3図) ボーナス希望額(年代別)



(千円) (4図) ボーナス希望額(独身・既婚別、民間・公務員別)



### (3) ボーナスの伸びについて 期待指数 8.0 ポイント上昇

今冬のボーナスの伸びは前年同期に比べてどうなるかについて、「良くなる」、「悪くなる」、「変わらない」の三つの選択肢で回答してもらった。ボーナスの伸びが「良くなる」との回答は、24年冬に比べ3.5ポイント増加の11.1%、一方、「悪くなる」は同12.5ポイント減少の21.9%となり、「変わらない」は同9.0ポイント増加の67.0%となった。この結果、ボーナスの伸びに対する期待指数(5図、注記参照)は44.6となり、昨年冬に比べて8.0ポイント上昇した。

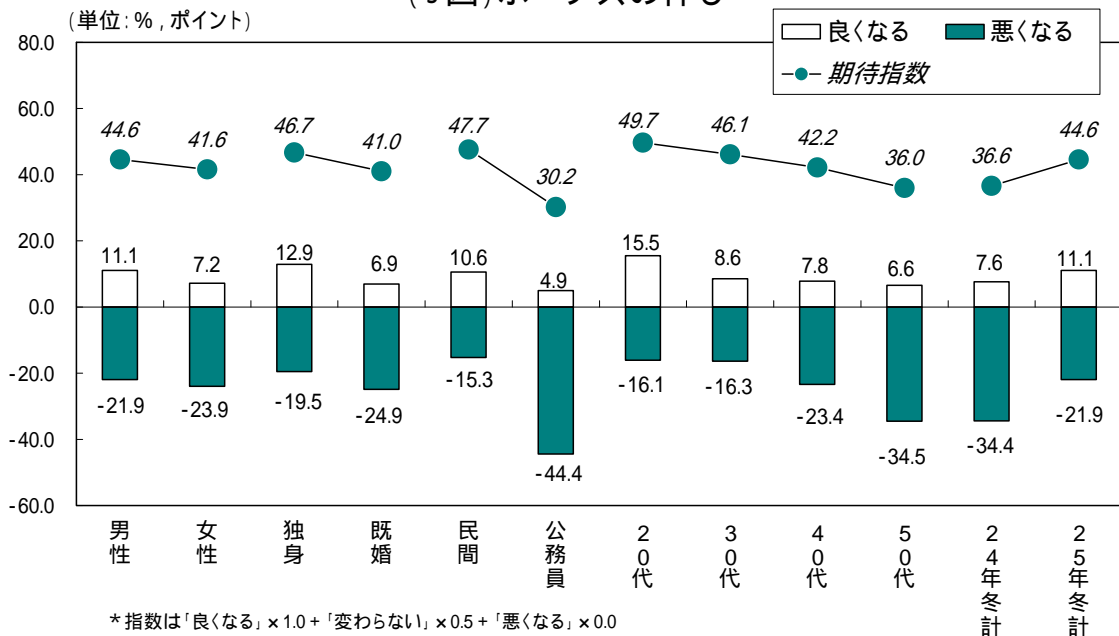
年代・属性別にみると期待指数は公務員が30.2、50代が36.0となったものの、その他は全て40.0を超え(24年冬は民間、20

代のみが40.0超)、全ての年代・属性で昨年冬に比べ上昇した。「良くなる」とする割合は20代が15.5%となったほか、男性、独身、民間で2ケタとなり、全ての属性で昨年冬に比べ増加がみられた。一方、「悪くなる」とする割合は全ての属性で減少した。

ボーナスの伸びについては、依然として各年代・属性とも「悪くなる」の割合が「良くなる」を上回っているが、その差は縮小傾向にあり、厳しさが続く中、全体としては緩やかながら改善傾向がみられ、悪化に歯止めがかかってきた状況がうかがわれる。

(以上、5図参照)

(5図) ボーナスの伸び



### (4) ボーナスの使途計画

#### 消費、貯蓄、返済とも昨年冬とほぼ同水準

この冬のボーナスの使途計画は、「消費」が41.7%、「貯蓄」が43.3%、「返済」が

15.0%の割合となった。前年同期と比べると、「消費」割合が0.1ポイント上昇、「貯蓄」割

合が横ばい、「返済」割合は0.1ポイント低下と、ほぼ同じ水準となった。

属性別にみると、男女別では、男性は「返済」割合、女性は「消費」、「貯蓄」割合が高かった。独身・既婚別では、独身者は「消費」、「貯蓄」割合、既婚者は「返済」割合が高かった。民間・公務員別では、民間

は「消費」、「貯蓄」割合が高く、公務員は「返済」割合が高かった。また、項目別にみると、「消費・買い物」では独身者(19.9%)、「返済・住宅」では公務員(10.8%)の割合の高さが目立った。

(以上、1表参照)

(1表) ボーナスの使途計画

(単位:%)

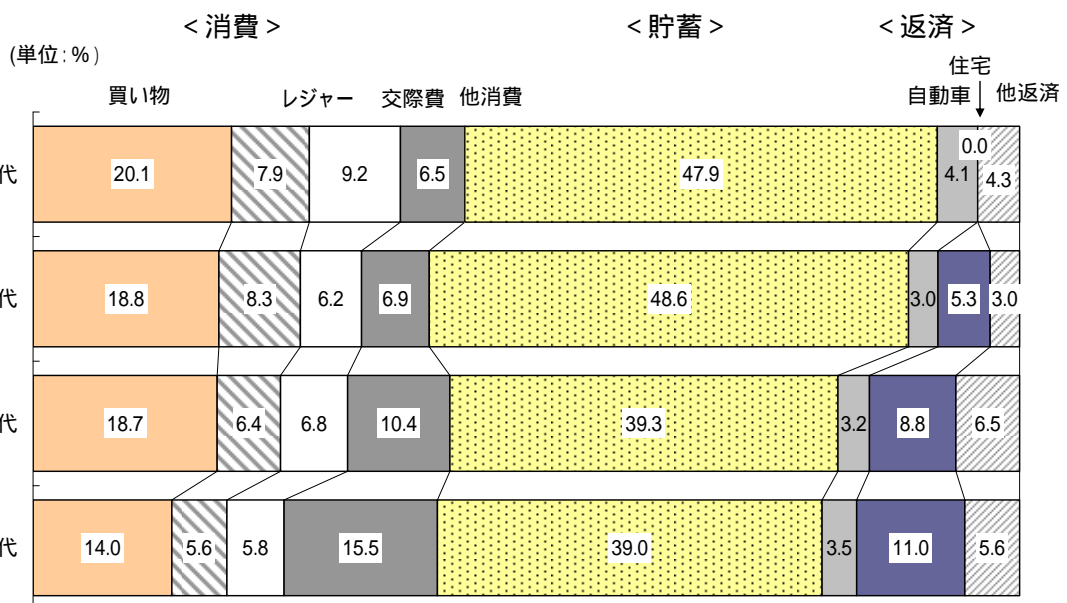
	消費割合					貯蓄割合	返済割合			
	買い物	レジャー	交際費	その他	自動車		住宅	その他		
男性	39.2	17.3	6.7	6.5	8.7	42.3	18.5	3.9	9.1	5.5
女性	44.1	18.4	7.2	7.2	11.3	44.3	11.6	2.9	4.4	4.3
独身者	43.9	19.9	7.8	8.0	8.2	46.6	9.5	3.7	1.3	4.5
既婚者	40.4	16.6	6.5	6.2	11.1	41.3	18.3	3.2	9.9	5.2
民間	42.4	18.7	6.8	7.0	9.9	44.9	12.7	3.4	5.3	4.0
公務員	39.7	15.5	7.4	6.3	10.5	38.8	21.5	3.4	10.8	7.3
25年冬計	41.7	17.8	7.0	6.9	10.0	43.3	15.0	3.4	6.7	4.9
24年冬計	41.6	17.9	6.6	7.2	9.9	43.3	15.1	3.2	6.8	5.2
23年冬計	41.2	18.9	6.6	7.0	8.7	43.0	15.8	4.3	7.2	4.4

年代別にみると、「消費」割合は20代が43.7%、40代が42.3%と高い割合となった。うち、「買い物」の割合は20代が20.1%と最も高かった。「貯蓄」割合は20代が47.9%と最も高く、年齢が高くなるにつれて割合が

低下し、50代は39.0%となった。「返済」割合は50代が20.1%と最も高く、住宅ローンの割合も50代が11.0%でトップとなった。

(以上、6図参照)

(6図) 年代別ボーナスの使途計画



## (5) 貯蓄の目的

「貯蓄していれば安心だから」がトップ、「老後の備え」、「教育」と続く

貯蓄の目的(複数回答)は、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が43.6%で最も高く、以下「老後の備え」が32.1%、「教育」が30.3%などと続いた。

前年同期との比較では「老後の備え」の割合が4.6ポイント上昇し、2位と3位が入れ替わった。また、4位以下の順位についてはほぼ同じであったが、「病気の備え」は12.2%となり1.7ポイント上昇した。

男女別にみると、男性は「教育」(35.6%)の割合が「老後の備え」を上回った。一方、女性は「旅行」(26.3%)が「教育」を上回り、

3位となった。そのほか、男性は「住宅」(16.5%)が8.5ポイント女性よりも高く、女性は「病気の備え」(15.1%)が男性よりも5.9ポイント高かった。

独身・既婚別にみると、独身者はトップが「安心だから」(54.9%)で既婚者に比べ18.5ポイント高く、次いで「旅行」、「老後の備え」と続いた。一方、既婚者は「教育」(44.9%)がトップとなり、「安心だから」、「老後の備え」の順となった。

(以上、2表参照)

(2表) 貯蓄の目的

(単位:%)

	男性	女性	独身	既婚	25年冬計	24年冬計	23年冬計
住 宅	16.5	8.0	6.6	15.9	12.3	12.0	11.8
教 育	(2) 35.6	24.9	7.0	(1) 44.9	(3) 30.3	(2) 29.9	(3) 26.1
結 婚	7.0	10.0	21.2	0.5	8.5	8.3	8.5
旅 行	15.4	(3) 26.3	(2) 28.2	16.1	20.8	21.4	19.7
耐久性消費財	10.4	8.3	9.9	9.0	9.3	10.5	10.6
病 気 の 備 え	9.2	15.1	12.1	12.2	12.2	10.5	9.4
老 後 の 備 え	(3) 30.5	(2) 33.7	(3) 25.6	(3) 36.2	(2) 32.1	(3) 27.5	(2) 27.7
安 心 だ っ け ら	(1) 42.6	(1) 44.6	(1) 54.9	(2) 36.4	(1) 43.6	(1) 46.6	(1) 46.9

## 2. 最近の暮らし向き調査

暮らし向き指数、幾分低下したものの、4期連続で4.0超

まず、「昨年の中頃と比べて最近の暮らし向きはいかがですか」との問いに対しては、「良くなった」との回答は25年夏に比べ0.5ポイント減少の5.0%、一方、「悪くなった」は5.7ポイント増加の20.9%、「変わらない」は5.2ポイント減少の74.1%となった。この結果、「現在の暮らし向き指数」(3表、注記参照)は42.0と、25年夏に比べ3.1ポイント低下した。暮らし向き指数は25年夏に比べ低下したものの、24年夏以降4期(半期

毎)連続で40.0を超える水準で推移している。「良くなった」とする割合は依然として5%程度と低い水準にあるものの、全体としては暮らし向きの悪化に底打ち感がうかがわれる。

年代別、属性別に見ると、「良くなった」とする割合は20代で9.6%となったものの、年代が進むにつれて低い割合となり、50代では1.7%にとどまった。一方、「悪くなった」とする割合は、20代が7.3%と「良くなった」

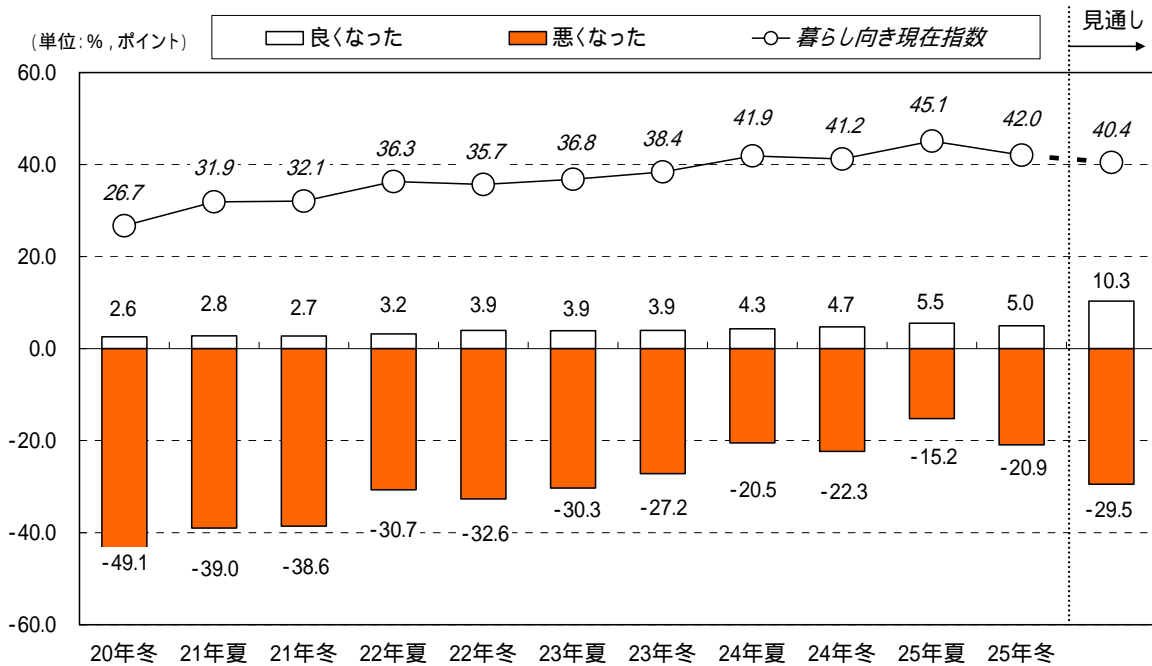
を下回り、1ケタ台となったものの、年代が進むにつれて高くなり、50代では34.2%となった。また、「変わらない」とする割合は50代、既婚者、公務員以外の年代・属性で70%を超えた。

次に「1年後の暮らし向きはどうなると考えますか」との問いに対しては、「良くなる」

の割合が5.3ポイント増加の10.3%となるものの、「悪くなる」は8.4ポイント増加の29.5%となった。この結果、「今後の暮らし向き指数」は「現在の暮らし向き指数」を1.6ポイント下回る40.4と、幾分低下する見通しとなっている。

(以上、7図、3表参照)

(7図) 暮らし向き指数の推移



(3表) 現在の暮らし向きについての見方

(単位: %, ポイント)

	現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後	
	良くなった	良くなる	変わらない	変わらない	悪くなった	悪くなる	指数	指数
男性	5.2	12.0	75.4	61.4	19.3	26.6	42.9	42.7
女性	4.7	8.8	72.9	59.0	22.4	32.2	41.2	38.3
独身	7.2	13.4	81.4	67.0	11.5	19.7	47.9	46.9
既婚	3.7	8.6	69.9	56.2	26.4	35.2	38.6	36.7
民間	5.3	10.7	76.8	62.2	17.9	27.1	43.7	41.8
公務員	4.0	9.2	66.7	54.6	29.3	36.1	37.3	36.5
20代	9.6	17.9	83.1	67.6	7.3	14.5	51.1	51.7
30代	5.2	10.0	78.4	66.0	16.4	24.0	44.4	43.0
40代	4.5	10.1	72.9	59.8	22.6	30.1	41.0	40.0
50代	1.7	5.2	64.1	48.7	34.2	46.1	33.8	29.5
全体	5.0	10.3	74.1	60.2	20.9	29.5	42.0	40.4

注) 現在指数 = 「良くなった」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなった」×0.0

今後指数 = 「良くなる」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなる」×0.0



### 3. 県内給与所得者の小遣いについて

#### 毎月、ボーナス時とも 20 代女性がトップ

ボーナス調査に併せて、給与所得者の小遣いについても調査した。全体では毎月の平均小遣い額は約 3 万 3,100 円、ボーナス時は約 5 万 300 円となった。男女別にみると、男性は毎月の平均額が約 3 万 6,900 円、ボーナス時は約 5 万 1,300 円、女性は毎月が約 2 万 9,100 円、ボーナス時が約 4 万 9,100 円となった。

次に年代別に小遣いの額を見ると、毎月の小遣いをもっとも多いのは 20 代の約 3 万 8,500 円、逆に最も少ないのは 40 代の約 3 万 100 円、ボーナス時では最も多いの

が 20 代の約 6 万 700 円、最も少ないのは 40 代の約 4 万 200 円となった。

男女別、年代別にみると、女性は 20 代の毎月・ボーナス時、30 代のボーナス時で男性の小遣いを上回った。一方、男性は 40 代の毎月、50 代の毎月・ボーナス時で女性を 1 万円以上上回っている。最も小遣いが多かったのは、毎月、ボーナス時とも 20 代女性であった。一方、最も少なかったのは毎月、ボーナス時とも 40 代女性であった。

(以上、4 表参照)

(4 表) 小遣いの額

(単位:円)

	男性		女性		総計	
	毎月	ボーナス時	毎月	ボーナス時	毎月	ボーナス時
20 代	38,231	58,545	38,686	62,457	38,490	60,736
30 代	35,667	51,531	31,981	55,602	33,930	53,398
40 代	36,833	42,760	23,388	37,447	30,060	40,237
50 代	37,492	56,290	25,135	43,676	32,100	50,963
年代計	36,907	51,291	29,069	49,133	33,069	50,269

### 4. この冬の御歳暮事情について

#### 予定あり 37.5%、贈答先数 4.8 先、平均金額 4,364 円

この冬、御歳暮を贈る予定については、全体の 37.5%が「予定あり」としており、昨年冬(32.9%)に比べ 4.6 ポイント上昇した。

属性別にみると、独身・既婚別では、独身者の「予定あり」が 18.6%にとどまったのに対し、既婚者は 48.6%となった。「予定あり」を年代別にみると、20 代では約 1 割にとどまったが、年代が進むにつれて割合が大幅に増加し、50 代では 64.7%となった。

次に「予定あり」の回答者に贈答先数と 1 先当たりの平均金額を尋ねたところ、平均先数は 4.8 先、1 先当たりの平均金額は 4,364 円となり、御歳暮予算合計額は 2 万 65 円となった。昨年冬の調査と比べると、贈答先数(昨年冬 4.6 先)が 0.2 先増加した。平均金額(同 4,451 円)は 87 円減少したものの、予算額(同 1 万 9,391 円)は 674 円増加した。

属性別にみると、独身・既婚別では、先数、平均金額とも既婚者が独身者を上回った。また、年代別でみると、先数、予算額は50代、平均金額は40代が最も多かった。

一方、20代は小遣い額ではトップだったが御歳暮は最も少ない件数、金額となった。  
(以上、5表、6表参照)

(5表) 御歳暮の予定

(単位: %)

	予定あり	予定なし
独身	18.6	81.4
既婚	48.6	51.4
20代	12.4	87.6
30代	24.9	75.1
40代	42.2	57.8
50代	64.7	35.3
全体	37.5	62.5

(6表) 御歳暮の先数と予算

(単位: 先、円)

	贈答先数	平均金額	御歳暮予算
独身	4.3	4,274	16,371
既婚	4.9	4,384	20,871
20代	4.7	3,800	15,150
30代	4.2	4,082	16,525
40代	4.3	4,724	19,759
50代	5.4	4,275	22,413
全体	4.8	4,364	20,065

(注) 回答項目をそれぞれ単純平均

以上

## 調査要領

調査対象者

県内在住の男女給与所得者

調査時期

平成25年11月中旬

配布・回収枚数

配布枚数 1,000枚

回収枚数 950枚 (回収率 95.0%)

## 回答者内訳

(単位: 人、歳)

属性	男性	女性	合計
20代	75 ( 25.9 )	104 ( 25.3 )	179 ( 25.5 )
30代	124 ( 34.4 )	126 ( 34.5 )	250 ( 34.5 )
40代	135 ( 43.8 )	153 ( 43.5 )	288 ( 43.6 )
50代	127 ( 55.1 )	106 ( 54.6 )	233 ( 54.8 )
独身	135 ( 33.8 )	216 ( 34.1 )	351 ( 34.0 )
既婚	326 ( 44.6 )	273 ( 44.2 )	599 ( 44.4 )
民間企業	331 ( 40.3 )	369 ( 39.8 )	700 ( 40.0 )
公務員	130 ( 44.4 )	120 ( 39.5 )	250 ( 42.0 )
合計	461 ( 41.5 )	489 ( 39.7 )	950 ( 40.6 )

注: ( )内は平均年齢

## 【 本件に関する照会先 】

一般財団法人 青森地域社会研究所

担当 産業調査部長 野里和廣

TEL 017-777-1511